26　なさけの庭　児島虎次郎

明治四十年（一九〇七）　油彩・カンヴァス
一三一・五×一九五・五

本図は明治四十年に開催された東京府勧業博覧会に出品され、一等賞を受賞、宮内省買上となり、実質的な公募展デビュー作であったにもかかわらず、児島虎次郎の出世作、そればかりか代表作ともいい得る作品となった。描かれているのは、児島の後援者であった大原孫三郎を通じて知り合った、石井十次の岡山孤児院の様子である。窓から冬の柔らかな外光が差し込む薄暗い室内に、病床にある子供を看病する女性と、そのまわりに寄り添うように集まった子供たちが、逆光のなかに描かれている。女性の頭上には宗教画が掲げられており、キリスト教者であった石井や大原の影響が見られるとともに、孤児たちに対して画家の暖かな眼差しがそそがれていることがわかる。本図の制作当時、わが国は日露戦争後の不況や東北地方の凶作などに見舞われたため、洋画家のなかにも次第に社会の厳しい現実に目を向ける者たちが現れていた。本図については、「慈愛」という抽象観念をあらわしたもので、東京美術学校で児島を指導した黒田清輝の目指す作画理念であった、日本における「構想画」を完成させたものであるという指摘がなされている（松岡智子『児島虎次郎研究』中央公論美術出版、平成十六年）。画面左下に「TORAJiRO KOJiMA／1907」のサインと制作年の記載がある。

児島虎次郎（一八八一～一九二九）は岡山に生まれ、同郷の実業家大原孫三郎の支援を得て東京美術学校に入学した。同四十年の東京府勧業博覧会に出品した本図で高い評価を得ると、その翌年、大原の出資でヨーロッパへ留学、ベルギーのガン市立美術学校でベルギー印象派の画風を学んだ。同校を首席で卒業して帰国、倉敷にアトリエを構えて、毎年パリのサロンへ出品し、のちサロンの正会員に推薦された。再渡欧に際しては大原の委嘱で西洋美術の収集にあたり、大原コレクション（現大原美術館）の基礎をつくった。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代の洋画家、創作の眼差し
三の丸尚蔵館展覧会図録No.52

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十二年十月三十日発行

©2010, The Museum of the Imperial Collections